

Title	『外国語教育のフロンティア』刊行にあたって
Author(s)	岡田, 新
Citation	外国語教育のフロンティア. 2018, 1, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/69771">https://hdl.handle.net/11094/69771</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 『外国語教育のフロンティア』刊行にあたって

ジョージ・オーウェル (George Orwell) によれば、明快な言葉を曇らせる敵は、何よりも言葉を発する人間の「不誠実さ」である。確かにどれほど巧みに言葉を操り、厳格に文法に則って文を綴っても、透明な誠実さがなければ、人は敏感にそれを感じ取る。饒舌であればあるほど、虚ろな言葉が躍る。バベルの塔を引き合いに出すまでもなく、言語の壁こそ、人類を隔てる壁に違いない。だがその壁を破るのは、結局、人の内なる良心の力なのではないか。今、日々の報道に溢れかえる言葉の虚さは、耳を覆うばかりである。

ここに刊行する『外国語教育のフロンティア』という新たな雑誌は、大阪大学外国語学部、およびその上になつた大学院、言語文化研究科の言語文化専攻、言語社会専攻と日本語日本文化専攻に属する教員の外国語教育の教育実践をまとめたものである。日本語を含む世界の25の言語とそれを基盤とする文化の研究が、私たちの使命である。この雑誌には、外国語教育における新しい試みや斬新な取り組み、勇敢な冒険や大胆な実験がぎっしりと満載されるはずだ。

しかし変わらぬものもある。どこまでも誠実に相手を理解し、自分を伝えようとする姿。この地球のどこにしよう、どんな言葉の話してしよう、同じ人間として、必ず分かり合えるという信念。これこそ、『外国語教育のフロンティア』に貫かれるべき精神ではないだろうか。相手の言語に耳を傾け、その意味を汲み取ろうとするたゆまぬ努力こそ、人間らしい文明を築くためのかけがえのない基礎なのだから。

この新しい雑誌が、言葉を通じて「東方から光を」もたらそうとした先人の歩みをつないでゆくことを祈りたい。

言語文化研究科 筆頭副研究科長

岡田 新